

豊富な出店や公開講義・ 乃木坂46ラジオ公開生放送も

北大祭 第60回 開催



今年度のテーマは「還暦（新たな一歩）」。60周年を迎えた今回の北大祭では、郷土料理の手作り体験や人

「還暦」を迎え 新たな取り組みも

6月1日から3日にかけて「第60回北大祭」が開催された。今年度は昨年度を上回る9万人が来場し、北大キャンパスは大いに盛り上がった。

「還暦」を迎え 新たな取り組みも

今年度のテーマは「還暦（新たな一歩）」。60周年を迎えた今回の北大祭では、郷土料理の手作り体験や人



▲会場にはたくさんの方が集まった

▲公開生放送の様子
不幸研究ゼミという
設定で本学学生（左か
ら2人）も出演した

NHKのラジオ番組「キャンパスで！なんかやったRadio」の公開生放送が3日、工学部の教室で行われた。大学のゼミという設定の下、本学教授の不幸話や学生参加型の企画などを通じ、1時間半にわたって「不幸」の本質に迫った。

学生企画のラジオ 教室から生放送 「不幸」をテーマに90分



▲本紙の取材に応じた
ジョイマン・高木晋哉さん（左）
とつぶやきシローさん（右）

番組終了後、本紙は出演者に感想を聞いた。つぶやきシローさんは「変に明るいものよりも、不幸をテーマにするのは面白い。北大生には真面目なイメージを持つていたが、面白さを重視する柔軟性があった。微妙などころを突いて

6月1日午後12時、「第60回北大祭」が開幕した。屋台が熱を帯び、メインストリートが活気づき始める中、早くも訪れた来場者に対し本紙は取材を行った。

来場者インタビュー 1日目

来場の経緯や目的は様々であったが、その場に居た誰もが、たまたま動き始めた北大祭に期待を膨らませていたようだった。

北大祭特別号

<編集・発行>
北海道大学新聞
編集部

<URL>
hokudaishinbun.com
(お問い合わせ・情報提供
もこちらから)

次の発行予定は8月

CONTENTS

IFF 世界の料理が集結	…2面
カルチャースクール 道内外の文化を体験	…2面
onちゃん 今年も北大祭に登場	…3面
低温研 南極の氷を展示	…3面
ロケット 「工学祭」で燃焼実験	…3面
イグノーベル賞 受賞の准教授が講演	…3面
自転車タクシー 「北大祭」に登場	…3面
初音ミク 「北大ダンパ」に降臨	…4面
模擬店グランプリ 今年の1位は…?	…5面
都ぞ弥生 今年もトリを飾る	…5面
北大新聞主催 「北大祭フォトコン」 結果発表	…6面

世界のオイシイ料理が集結 IFF

世界各国の料理が集結するIFF(International Food Festival)が、今年も北大祭に登場した。アジアからヨーロッパ、さら

インドネシア

「Satay Bangkokumis」

「本当にキュウリの味がする。すげーうまい」。通明けに、お腹にやさしくて飲み物を手にそう言った。このユニークなジュースを売っていたのは、インドネシアからの留学生らだった。聞けば、彼らにとって一般的な飲み物だとい



▲ユニークなキュウリのジュース

トルコ

トルコ人留学生2人で運営される「トルコの宝」で、チーズやポテトフライ



▲店の外見 異国情緒が溢れる

「トルコ人留学生2人で運営される「トルコの宝」で、チーズやポテトフライが入ったツイスターを販売していた。IFF部門1位を受賞した彼らに、おめでとうございますと伝えると、そんなにすごいのか？との返事。ボケたのかと思ったが、なんと彼らは初めての出店だったそう。日本でもトルコが話題になることは滅多にない。祖国のPRも兼ねて今回の出店を決めた。食は文化だから」という言葉が印象的だった。

アフリカ

「SAHARA BROTHERS」

「アリガトー」と賑やかでな掛け声が聞こえてくるのはアフリカ「SAHARA BROTHERS」。商品が売れるたび明るく、ノリの良い声が響く。品数は3点と多くないものの、こだわりのアフリカ料理が売ら



▲実食したメニュー

は受け身なものが多かった。『来場者の方が体験して楽しめる企画を』と開催した」と語る。

道内外の文化を味わう カルチャースクール開催

北大祭事務局が主催する体験教室「カルチャースクール」が1日から3日に

りで、連日多くの親子連れなどで賑わった。カルチャースクールが北大祭で開催されるのは今回が初。担当の高野さんによると、マスケット作りは北

体験を楽しむ多くの声

会場では多くの人が手作り体験に取り組んだ。マスケット作りでは、「子供と一緒にゆっくり作れた」飾り付けが楽しかった」など



▲ずんだもち作りの様子



▲マスケット作りを楽しむ親子

来場者インタビュー 2日目

「初めに本物の人間の臓器に触ることができた」と興奮気味に話した。本学近隣から来たという家族連れは「北キャンパスの施設公開が印象的だった。(研究を)丁寧の説明してくれた」と満足そうだった。12の祭で構成される北大祭には様々な見どころがある。インタビューでは、思い思いの北大祭を楽しんでいる様子が伺えた。

インドネシア 「SOTO AYAM」

陽気なインドネシア人が接客するのは「SOTO AYAM」だ。店名の由来になつた家庭料理のソトアヤム(ココナッツ風味のチキンスープ)をはじめ、デザートやコーヒーなども並ぶ。記者はその中からグリーンバナナアイスを実食した。



▲陽気な店員 撮影に笑顔で応じてくれた

onちゃんが 北大祭に登場

来場者や 学生と交流

HTB北海道テレビ放送 「特別学部生」でもあるon ちゃんが、北大祭に登場 した。1日と2日には模範 店がひしめくメインスト リートを通り歩き、出店者 と握手を交わしたり、記念 撮影をしたりするなどその 人気の高さをうかがわせ た。2日に工学部噴水広場 前で行われた「onちゃん とおはようたいそう」では、 北大祭キャラクター・ふっ

噴水の前でポーズを決めるonちゃん
背後には祭の風景(©HTB)



2日には北キャンパスで
「自転車タクシー」
北大祭を走る

自転車タクシー

北大祭を走る

北大祭2日目の6月2日、18条門から北キャンパスまでの道のりを自転車タクシーが走った。普段は大通り付近で営業しているこの自転車タクシーは今回、北キャンパスでイベントが開催されるにあたり、依頼を受け学内で運行された。タクシーの運営団体「エコ・モビリティ・サポロ」代表の栗田敬子さんは、「歩くには遠く、車では近すぎる、自転車ではちょうどいい距離を移動するときに利用

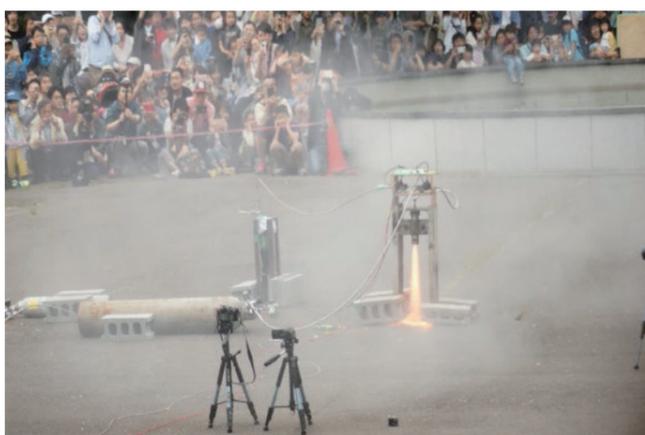
行われた施設公開にも足を運んだ。最新の研究について説明を受けたほか、特別な機械を使って体の歪みを測定するなど、学生として学ぶ姿勢もアピールした。昨年引き続き、自転車タクシーを使って構内を移動する一幕もあった。



▲onちゃんと自転車タクシー

ロケット公開燃焼実験 炎と轟音で観客を魅了

ロケットの公開燃焼実験が3日、工学部正面玄関前で行われた。会場には大勢の観客が集まり、普段見る事の出来ない実験に視線を注いでいた。

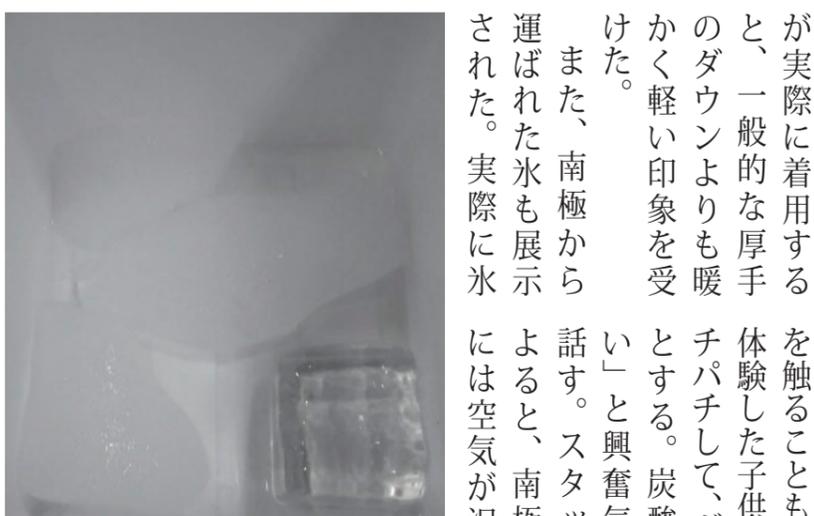


▲ロケット点火の瞬間 会場には轟音が響いた

ロケットの公開燃焼実験が3日、工学部正面玄関前で行われた。会場には大勢の観客が集まり、普段見る事の出来ない実験に視線を注いでいた。ロケットの公開燃焼実験が3日、工学部正面玄関前で行われた。会場には大勢の観客が集まり、普段見る事の出来ない実験に視線を注いでいた。

低温研究所一般公開 貴重な体験が盛り沢山

本学低温科学研究所が6月2日、一般公開を行った。館内には南極や雪などに関する展示物が並び、親子連れなど多くの人が集まった。展示室に入るとまず目に引くのは研究員用の分厚い作業服だ。この作業服は実際に南極で使用されており、マイナス50度にも耐えられ、かつ動きやすい作りとなっている。記者



▲通常の氷(右下)と南極から運ばれた氷(左上)

が実際に着用する。体験した子供は「パチパチして、ざらつとすると、炭酸みたく」と興奮気味に話す。スタッフによると、南極の氷には空気が沢山閉じ込められているという。そのため、表面は粗く溶ける際に弾けるような音がする。「氷の中には何千年前の空気も入っている。我々はどういう空気を調べ、当時の環境を研究している」と説明する。

イグノーベル賞公開講義

「始まりは純粋な好奇心」

2017年にイグノーベル賞を受賞した本学の吉澤和徳准教授による公開講義が3日、文系棟で行われた。講義は約1時間。終了後に質疑応答や准教授との記念撮影も行われた。イグノーベル賞とは、「人

を笑わせ、そして考えさせる研究を讃える」賞だ。今回受賞した吉澤准教授の研究は「トリカヘチャタテ」について。「チャタテムシ」の仲間であるこの昆虫には、メスとオスの生殖器が逆転しているという大きな特徴がある。吉澤准教授



▲講義を真剣に聞く来場者

はじめとする研究チームがこの現象についての理論を打ち立て、その成果がイグノーベル賞につながった。准教授は講義の中で、この研究について「役立つ見通しはまだない」としつつ、「細く長いペニスについて」の研究が優秀なカテゴリー(医療用器具)のヒントとなった例もある。研究の始まりは純粋な好奇心。未知の種を掘り起こし続けることが新たな研究につながり、将来のためになるものが見つかるとも知れない」と研究の魅力について語る。また、自身のツイッターでも「研究のきっかけは分類学者や形態学者が行ってきた未知のものを掘り起こし記載するというごく普通のこと。その意味では、賞をもたらしたのは分類学・形態学だ」と述べている。

北大ダンパに

「初音ミク」 降臨

新設サークルの熱意と挑戦

北大祭2日目の15時から、本学工学部の噴水広場だ。コスプレ音楽イベントも運営されている。そんな北大祭の恒例行事前に、「北大ダンパ」(ダの開催などを行う社会人)が行われた。ダンパサークル「FIGHTIN」は毎年北大祭で行われる「G DREAMERS」と、



▲初音ミクのモデル投影(ボカロ同好会提供)



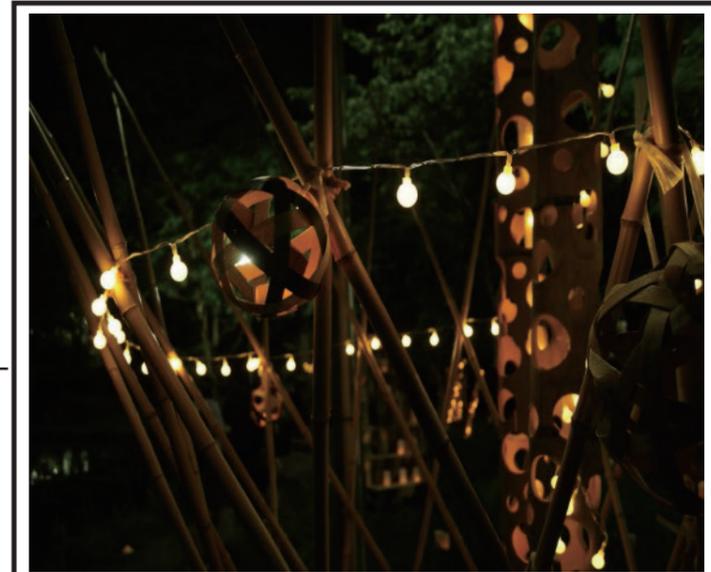
▶映し出された初音ミクを前に盛り上がる会場

学祭実行委員会との連携のもと運営されている。2016年に設立されたばかりの非公認サークルだ。昨年9月頃からダンパでの「初音ミク」モデル投影を

を、今年度は「VOCALOID」(ボカロ)キャラクターである「初音ミク」が務めた。透過型スクリーンに映し出されたボカロキャラの3Dモデルが、音楽に合わせて歌って踊るライブは、ダンパを大いに盛り上げた。

この例年がない試みは「北海道大学ボカロイド同好会」(ボカロ同好会)が企画・運営した。ボカロ同好会は、「ボカロ好きが

集まれる空間」を目指して、2016年に設立されたばかりの非公認サークルだ。昨年9月頃からダンパでの「初音ミク」モデル投影を企画。技術・資金・人手などの問題を乗り越え、ライブを成功させた。



▲北大祭ライトアップ 大野池を照らす
北大祭事務局と市民団体のコラボレーションによる「北大祭ライトアップ」では、ランプシェードや竹細工が大野池に彩りを添えた。

本紙はボカロ同好会の創設者兼部長である平川さんに話を聞いた。「ボカロへの関心が大い人もそうでない人も、会場全体でひとつになってライブを楽しむ空気感があり嬉しかった。中にはメイストリートで足を止めてくれる人も居て、『まだボカロが愛されて、』まだボカロが愛されて、多方面への感謝を口にしている」という実感が湧いた。ライブ終了後も、『良かった』と感想を伝えてくれた人がたくさん居て、準備の甲斐を感じた」とライブ成功の喜びを語った。同時に、「部員や外部の方々、そして観客の皆さんによる支えがあってこそ成功」と、多方面への感謝を口に

教養棟でも多数の展示 各サークルが活動をアピール



▲中央にある物体がドローン

北大祭期間中、高等教育推進機構(教養棟)内では文科系サークルら35団体による展示・発表が行われた。毎年恒例となっている

る写真等の作品展示や楽器演奏に加え、ドローンの体験操作なども行われた。

鉄道研究会は教室内に鉄道ジオラマの製作・展示を行った。製作には半年ほどかかり、春休みからはほとんど毎日作業を行っていたという。同会会長の栗田

今年度の展示を振り返り、来年の抱負を語った。どのサークルも、普段の活動をアピールできよう、精力的に取り組んだ。



▲会場で展示された鉄道のジオラマ

広告募集中

5000円/月 ~

協力 協求

新メンバー募集中

模擬店グランプリ行われる 230店から一般投票 今年もあのゼミが連覇

投票結果

- 👑 **1** めんちかちゅー法学部知的財産法ゼミ
- 👑 **2** けずりいちごーけずりいちご同好会
- 👑 **3** なしだ慶太郎ーなしだ慶太郎
- 👑 **4** 伝家のほうとうー山梨県人会
- 👑 **5** 油そば圓子屋ーMARCO CLUB

1年生部門/金だこー1-31
 肉料理部門/なしだ慶太郎ーなしだ慶太郎
 たこ焼き・お好み焼き部門/広島お好み焼きー広島県人会
 IFF部門/トルコの宝ー親日トルコ屋(→2面)
 デザート部門/けずりいちごーけずりいちご同好会
 ご飯もの部門/たまろめしーたまろのおうち
 麺類部門/伝家のほうとうー山梨県人会



▲揚げたてのメンチカツ

法学部知的財産法ゼミの「めんちかちゅ」が、模擬店グランプリ総合7連覇を達成した。総合1位を獲得した要因について、自らも店



「安くておいしい」を追求し

GP総合7連覇ーめんちかちゅ

北大祭最終日の3日、「模擬店グランプリ」の最終発表が行われた。約230店の模擬店から9店が一般投票の模擬店が表彰された。



ブランド化とインスタ映えが功を奏すーけずりいちご



▼こだわりの「いちごけずり」

総合2位・デザート部門グランプリを獲得したのは、フットサル部4年生で構成されたけずりいちご同好会の「けずりいちご」だ。出店者はランクインの理由について、ロゴやシール作成などのブランド化の試みや、インスタ映えしそ



ダイナミックな調理で

目を引き付けるーなしだ慶太郎

総合3位・肉部門一位を獲得したのは、フットサルサークル・EsperanzaのOBが運営する「なしだ慶太郎」だ。テント内には留学生の姿もあったが、祭期間内に仲良くなり仲間に加わってもらったという。「その場で仲良くなった留学生を店に迎え入れるのは、毎年恒例。客を惹き寄せるため、調理しているところを見せるようにしている」と本学で生まれた新たな友情が垣間見えた。



▲立ち昇る煙が目をつけた



1年生部門1位を獲得したのは、1年31組の「金だこ」だ。注目すべきは接客。「食べるだけでなく、待ち時間にマイクをつけた男子学生が客を誘導し、待ち時間と笑顔で語った。

1年生部門ー1年31組「金だこ」

たこ焼き・お好み焼き部門

広島県人会「広島お好み焼き」

たこ焼き・お好み焼き部門1年生に焼いてもらうこと門で1位を獲得したのは、広島県人会の「広島お好み焼き」だ。同会は20年以上にわたって出店を続けている。実績を誇り、出店者さえも分らないほど歴史が長い。来客の少ない時間帯に

ご飯もの部門

たまろのおうち「たまろめし」

ご飯もの部門1位を獲得したのは「たまろめし」だ。元1年37組を母体としており、試行錯誤を重ねて目になるという。「農家とのゆかりがあるメンバーがおりを話した。

と銘打ち、北大祭の最後を飾った。

「都ぞ弥生」斉唱 今年もフィナーレを飾る

会場には多くの人が集まり、校歌「永遠」とこしえの幸に続き本学恵迪寮の寮歌「都ぞ弥生」、そして恵迪寮で昔から歌い継がれている「ストーム」の歌が歌われた。最後には赤ふんどしの一団が輪を作り、北大祭の終わりを大いに盛り上げた。さらに、龍の模型が屋上から展開され、会場を驚かせた。



▲最後に登場した龍

北大祭最終日の3日17時より、高等教育推進機構(教養棟)前で毎年恒例の「都ぞ弥生」斉唱が行われた。「一万人の都ぞ弥生」

北大祭フォトコンテスト

結果発表



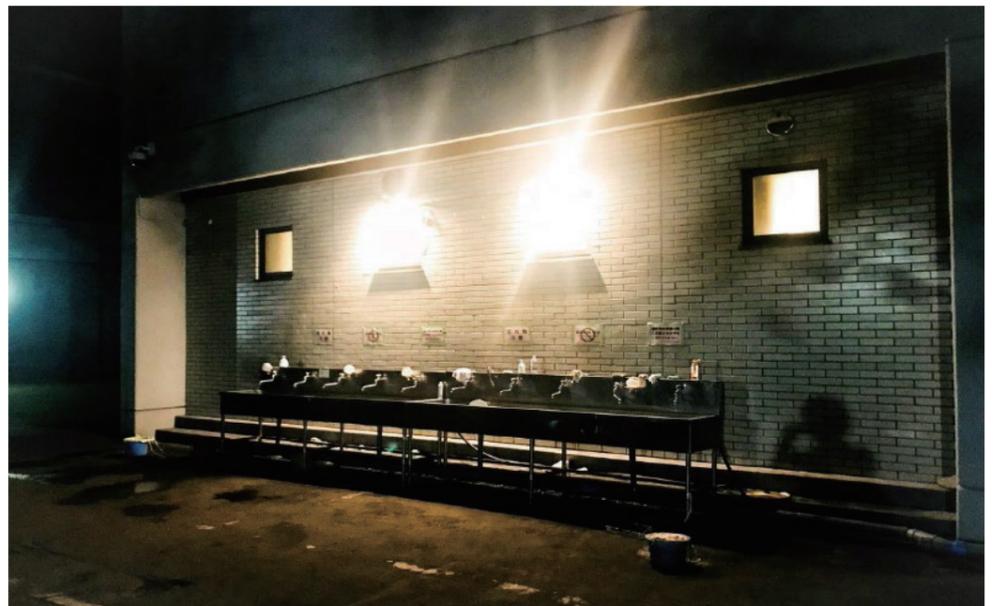
第1位

aaronさん



第2位
souさん

第3位
餃三昧さん



第4位
北大祭
360 プロジェクトさん



たくさんのご応募、
ありがとうございました！